



# 羅針盤

\*GWは外出を控えてと各都市の首長が悲痛なお願いをしている中で、観光地は去年とは様変わりで大勢の旅人たちが押しかけているようです。心の隅では恐れながらも、ロックダウンしていないし、罰は無いのだからと出かける人達。医療従事者だけが走り回る状況は切ないですね。解除日が延期になればストレスが続くのです。あと少し我慢して、日本中に笑顔が戻るよう協力しましょう。そんな中での一縷の望みはワクチン接種が本格的に全国展開し始めたことです。行政の対応は様々ですが、スケジュールが順調に進んで欲しいと願います。  
\*桜前線北上の速さに驚いたのがついこの間なのに、もう梅雨入り予想のニュース。五月晴れの空の下で背伸びし、明るい気持ちになれる日が続くことを期待したいですが、静岡では竜巻？が茶畑を襲ったり、気候変動は予想をはるかに超えて忍び寄ってきている様子。梅雨末期が集中豪雨とならないことを祈りますが、予期せぬ出来事になったとき想定外と嘆かないように、非常時グッズの点検もお忘れなく。

## Market Forecasts by Y. san - 5月 -

### 鉄スクラップ

4月は鉄スクラップ価格の指標になる東京製鉄宇都宮工場の特級価格が40,000円/トンからスタート。13日と15日に1,000円/トンづつ上がり、42,000円/トンまで上昇。中国の旺盛なビレット需要や鉄鉱石の価格上昇により5月はさらに上がると思われる。

### 銅

4月はLME8,770ドル/トン台、国内銅建値1,020,000円/トンでスタートし、29日には国内銅建値1,080,000円/トン。LMEは2011年2月以来の10,000ドル台/トンに届くなど上昇しました。5月も相場は上昇機運と思われますが、実際の取引は厳しいでしょう。

### 4月予測の自己評価

鉄スクラップ；× 銅；× アルミ；×

### アルミ

4月のアルミはLME2,100ドル台/トンでスタートし、最終週には2,380ドル台/トンまで上昇し、年初来の高値を付けました。国内のアルミ缶の価格上昇、ドル安・中国の石炭の使用削減により、5月も上げが予想されます。

### 産業廃棄物

新型コロナウイルス拡大により廃棄物全体の発生量が日々減少している中で、生き残れるのは回収資源の分別化が出来る業者でしょう。今こそ量より質です。自社で手をかける処分場は危険物も除去出来、有価価値を更に高くして売却できます。ひと手間かけて出荷しましょう

## Topics

### 東京都中央防波堤埋立処分場の歴史

今回は東京都が管理する埋立処分場である中央防波堤処分場の少し辛い歴史に触れてみたいと思います。

昭和の初め、1927年(昭和2年)に8号地(潮見)での廃棄物の埋め立てが始まり、その後1957年(昭和32年)に14号地(夢の島)、1965年(昭和40年)に15号地(若洲、新夢の島)、1973年(昭和48年)に中央防波堤内側埋立地、1984年(昭和59年)に羽田沖(大田区羽田空港一部)と埋立が進められました。現在、廃棄物の埋立ては中央防波堤外側埋立処分場(その2)及び新海面処分場で行われており、その廃棄物埋立面積は、都のホームページによりますと、合計518ヘクタールで東京ドームの約110倍との事です。

さて、江戸時代から江戸・東京のごみを埋め立てる最終処分場としての役割を、1655年(明暦元年)から一貫して抱えていたのが現在の江東区でした。大変お世話になっております。

1950年代半ばに日本は高度経済成長期を迎え、廃棄物の増大や有害ごみの発生など内容の多様化を招き、最終処分場の逼迫や清掃工場から出る煤煙の問題など、ゴミ問題がより顕著に現れるようになりました。当時の東京特別区(東京都区部)における清掃行政は、東京都清掃局が担っており、ごみを焼却処理や埋立処分をしておりましたが、1950年代後半には特別区内における埋立処分場は満杯となり、替わって海面埋立が行われるようになりました。

その後の処理量の増大に清掃工場の中間処理能力や工場自体の数が追いつかず、廃棄されるごみの約7割が未処理でそのまま埋立てられるようになっており、1950年代後半から1970年代前半に埋立中だった処分場が「夢の島」と「新夢の島」であり、埋め立て中の1961年(昭和36年)7月23日に埋立地北部から出火、消防艇3隻での消火活動も及ばず2週間に渡り燃え続け、4万平方メートルが焼失しており、これは当時の総面積の約40パーセントに相当しております。また、1965年(昭和40年)7月16日、夢の島で発生したハエの大群が強い南風に乗って、江東区南西部を中心とした広い地域に拡散し大きな被害をもたらしました。東京都と江東区による懸命な消毒作業が行われましたが、解決に至らず、警視庁・東京消防庁・自衛隊の協力を得て、ハエの発生源である高さ約20メートル幅約270メートルに及ぶ生ごみの断崖を焼き払う「夢の島焦土作戦」が実行されました。

このような夢の島の惨状をマスメディアが報道したことにより「夢の島ごみの島」という、負のイメージが植え付けられました。筆者も1990年代に中央防波堤埋立処分場で、ごみを漁るカモメの群れのいる時期ではありませんでしたが、ごみや不燃ごみなどがそのまま埋め立てられているのを見た経験があります。

しかし、現在はご安心ください、生ごみは燃やす等や不燃ごみは破碎等中間処理した後に埋め立てており、過去の負のイメージは

## Series

### 水底の花 (4)



営業部 柳葉明未

JR桜木町駅前から新港ふ頭の横浜ワールドポーターズ前までを結ぶロープウェイが2021年4月22日に運行開始するとの事です。この文章が掲載されている羅針盤が発行されている時点で、既に運行開始しております。運賃は大人1000円、子供500円。運行距離は約630メートル。ゴンドラ内冷暖房完備、バリアフリー対応。古めかの観覧車の「熱い、サウナかな?!」という事故はない安心仕様です。どこかの機動戦士さんを実物大で置いてみたり、何かと話題に事欠かない横浜にどうぞお出でくださいませ。

羅針盤4回目、最後となりました。金魚の歴史、見方、美術品と来ましたので、今回は実際に金魚を観られる施設を紹介させていただきます。以前色々話題になりました、日本橋にあります『アートアクアリウム美術館』。コンセプトは『生命の宿る美術館』。年間を通して、美術館そのものが生きているかのような、四季折々の空間を演出する。現在2021年5月9日まで春の特別企画、『桜金魚舞い泳ぐ』が開催され、桜仕様になっております。(私が観に行った頃は季節事の企画はまだ始まっていませんでした、残念です…)

また、「五感で感じる」ことにこだわり、「命」「光」「音」「香」「味」の感覚を刺激する「訪れないと味わえない」空間を表現していく。美術館というよりは、総合芸術施設とも言うべきでしょうか。美術館特有の静寂さとは違った空間が展開されております。

私が印象に残った作品は『花魁道中』『金魚品評』『床掛け金魚飾り』です。『花魁道中』は色鮮やかにライトアップされた大きな金魚鉢に沢山の金魚達が泳ぐ様子は圧巻です。『金魚品評』はシンプルに低めの円筒型の容器に水を満たし、優雅な泳ぐ金魚を上見する作品です。特に蓋が被せてありませんので、近距離で観ることが出来ます。ライトアップもシンプルでゆっくりと鑑賞するのに向いています。『床掛け金魚飾り』は金魚の動きにあわせて水墨画の映像が展開される、掛軸型のアートリウム。…いくつもの作品の全てが個性的で、金魚と様々な要素が掛け合わされて展開される作品も多くあります。是非足を運んでくださいませ。

さて、駆け足ながら四回にわたって『金魚』をテーマに様々なモノを語ってきましたが、いかがでしたでしょうか?ここまで読んでくださった方、誠にありがとうございました。

日常に少しでも華を添えられれば、幸いです。(了)

完全に押しよこされております。廃棄物の処理方法は日々進歩しております。東京都中央防波堤埋立処分場という身近にある処分場の短い歴史の中でもダイナミックな素晴らしい変化が見られます。当社もごみのない世界を目指して奮闘努力をしております。

出典: ウィキペディア(Wikipedia)  
東京都環境局ホームページ